



ドイツ軍がモスクワへ迫っている頃、移動抹殺隊は第一線の背後で殺戮を続けていた。地図86は、主な虐殺例である。地図87は、リアニアのヴィルナ地区の詳細だが、そこではドイツのSS中尉が上司への報告用に、詳しい記録をつけていた。自分の抹殺隊が処理した人数を男女、成人子供別に毎日書いていた。

移動抹殺隊は重武装のうえ、現地の反ユダヤ勢力から強力な支援をうけていた。殺される側のユダヤ人は非武装で、猛烈な敵意を抱く農民層に囲まれた環境のなかにいた。この

農民層は、抹殺隊が到着する前から頼まれてユダヤ人社会を襲った。手当たり次第にユダヤ人を殺すので、SSが地方住民に殺すのはめよと命じるケースがあったほどである。は、無秩序なやり方を好まず、抹殺隊は組織的に従った“組織的”行動に徹した。抹殺隊は圧倒的な力を誇る相手ではあなかった。ユダヤ人が抵抗する場合もあった。スタロドブの乱が起きたのが、タタルスクとスタロドブである(地図86)。この反乱をつぶすため、ドイツは正規軍を投入した。反乱が広がるとドイツ軍は火炮で砲撃したり、航空支援を

ホロコースト歴史地図

1918-1948

マーチン・ギルバート 滝川義人[訳]



ATLAS OF THE HOLOCAUST

